

長野県ササ類地図 (7)

長野市に分布するササ類

三樹 和博*

はじめに

長野市は長野県北部に位置し、市内中心部は盆地地形となっている。地質的にはフォッサマグナの一部をなしており、盆地底面を千曲川（標高 250m）が流れ、犀川や裾花川を合わせ新潟県へと北流する。盆地周辺部の標高 600-700m ほどの低山帯には、コナラ、クヌギ、ケヤキなどからなる夏緑二次林が広がっている。一方、近年までの市町村合併により拡大した市域の北西部には、戸隠山、飯綱山、黒姫山、高妻山など 2,000m 級の山岳が聳え、亜高山帯植生を成立させている。（清水 1997）。

市域の広さと多様な地形を内包することなどにより、市内地域ごとに見ると、異なった気候環境を配している。特に新潟県に接する地域では降雪量も多く、それに対し千曲川周辺の地域では、年間降水量も少なく、こうした広範な環境を反映して、地域ごとに多様なフロラが存在している（中村 2014）。

北西部の山地周辺には、日本海要素の植物も多数分布しており、裾花川沿いまで南下すると太平洋側に分布域を形成する種が見られ、この地域は、これら対照的な種群の分布境界となっている。また、市内中心部に近い低山帯や丘陵地などでは、人為的な影響も市内の植生を特徴づける要因となっており、希少種の生育する環境の保全や、外来種の拡大なども課題化している（中村 2014）。

長野市における、上記のような多様な環境が、ササ類相に対してもどのような種組成を反映させているか実態調査をおこなった。

調査地域と方法

長野市内で調査対象とした山地は（図 1）、長野市内東部の松代地区から岩峰を立ち上げている^{あま}尼^{かざりやま}巖山（標高 780m）。市内西部の裾花川と犀川の間に位置する中条地区の虫倉山（標高 1,378m）。その東側の七二会地区から車道を上がり、陣馬平山直下の地藏峠周辺（標高 1,171m）。裾花川を北側に

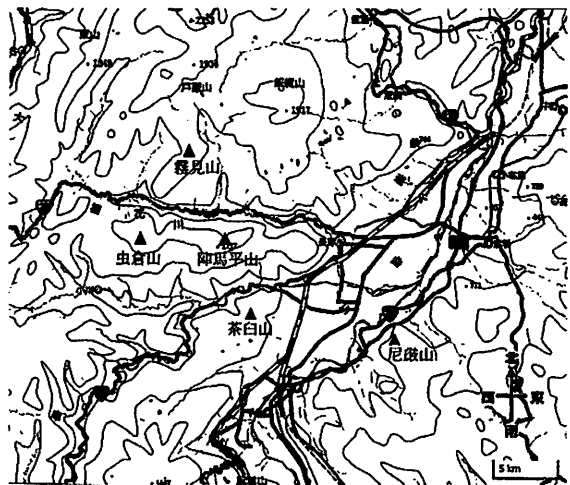


図 1. 調査地域図

越えた戸隠地区の荒倉山系の一山である霧見岳（標高 1,400m）。以上 4 か所の山地を選び、登山道沿いに分布するササ類を調査した。そのほか、国道 19 号線や国道 406 号線沿いに見られる種も記録した。また市内中心部の西側に位置する茶臼山周辺でも、ササ類の分布を確認した。登山道以外は自動車を利用し、自生種のみを記録した。調査は 2020 年 10 月 20、21 日に行い、ササ類の同定は小林（2017）に準拠している。採集を行った種は、証拠標本として長野県環境保全研究所（NAC）に収めた。

結果と考察

スズダケ *Sasamorpha borealis* の分布境界

本調査で訪れた 4 か所の山地で、スズダケの分布を確認した。尼巖山では、山麓部の人工林の上部に広がるコナラやヤマザクラ、ケヤキなどの林床斜面にかなり密な群落（標高 558m 前後）を形成していた。

虫倉山でも、登山口のある虫倉神社付近から始まるミズナラやイタヤカエデなどの林床に、ササ属 *Sasa* チマキザサ節 Sect. *Sasa* のクマイザサ *S. palmata* とともにスズダケが出現した（標高 1,034m 前後）。

陣馬平山の地藏峠では、車道脇から続く小山を覆う夏緑林の林床にスズダケ群落（標高 1,171m

* 三樹 和博 〒252-0173 神奈川県相模原市緑区小原 859

前後)を確認し、同一群落中には、スズザサ属 *Neosasamorpha* のハコネナンブスズ *N. shimidzuana* (図 2) が混生していた。周辺部には、チマキザサ節のオオバザサ *S. megalophylla* も生育していた。

戸隠地区の霧見岳では、林道の登山口周辺の平坦な場所にはクマイザサが見られるが、登山道沿いでは土壌の発達が悪い痩せ尾根となり、岩場にしがみつくように生育するスズダケ(図 3)を確認した(標高 1,270m 前後)。4 か所の山地とも、スズダケ群落は登山口からそう遠くない中腹部で分布を確認したため、山頂帯に近づくことはしなかった。

スズダケは本来、太平洋側の林内に分布域を形成する種である。積雪環境に対しては、地形や雪質の影響も考慮する必要があるが、積雪深 75cm までの環境に分布するとされている(鈴木 1997)。

長野市内の低山では、旭山(標高 650m)でも分布が確認されていて(清水 1997)、尼厳山では比較的安定した規模の群落であったことなどからも、長野市周辺の低山地での分布は、限定されたものではなく、この地域が、太平洋側気候の卓越する地域であることと調和的な状況であると考えられる。一方、西部の標高 1,000m を越える山地では、チマキザサ類を交えながらの分布となっており、陣馬平山地蔵峠のスズダケ群落では、雑種起原と推定されるハコネナンブスズと混生していた。ここでは、オオバザサ群落とスズダケ群落が近接していたため、これら 2 種が親種となっている可能性が高い。

最も北側の戸隠地区の霧見岳では、岩場の痩せ尾根の稜線上に、かなり小型の稈が張り付くように生育しており、積雪を避けうる条件を選択しているようにも見えた。

この地域の山地では、狭い範囲においても積雪量の増減が急激である(清水 1997)。また、山地上部の高標高域では、積雪環境に適応したチシマザサ *S. kurilensis* の分布も確認されており(宮脇 1979, 清水 1997)、高標高域での積雪量の増加を表している。

以上のことから、長野県におけるスズダケの分布北限の一端は、長野市北西部の山域内にあるのではないかと推測される。

アズマザサ属 *Sasaella* の形成とアズマネザサ *Pleioblastus chino* の分布

長野市内では、盆地周辺から低山の山麓部に向け、アズマネザサの分布が点在しているが、市街化された区域では、かなりの局在傾向にあり、人為的な植

栽にまつわるものである可能性もある。しかし、茶臼山自然公園西側の丘陵地(標高 400m 前後)では、数百メートルに及ぶ範囲にアズマネザサ群落広がっており、一部にはアズマザサ属の種との混生も確認した(図 4)。茶臼山上部にはチマキザサ節の種の分布もあり、前述のスズザサ属と同様に推定雑種起原の分類群であるアズマザサ属の種の形成には、チマキザサ節の何らかの種とアズマネザサが関わったものと推測される。

現在ではアズマザサ属の種の分布がアズマネザサの分布量に比べ卓越しており、長野市内の西側の地域では、アズマザサ属の群落を頻繁に確認した。市内西部を走る国道 19 号や 406 号線沿いの地域では、アズマザサ属のシオバラザサ *Sa. shiobarensis* やタンゴシノ *Sa. leucorhoda* などの群落が断続的に現れる。一部ではオオバザサとの混生群落も確認した(図 5)。なおアズマザサ属の分布は垂直方向にも広がりをみせており、標高 400m 前後の丘陵地から 1,000m 近い地点まで生育が確認されるが、分布密度は、標高が高まるにつれて減少を示す。

謝辞

戸隠地質化石博物館の中村千賀氏、長野県植物研究会の藤田淳一氏には長野市内の登山情報をご教示頂きました。また、長野県環境保全研究所の柳澤衿哉氏には標本受け入れに際しご助力を賜りました。ここに謝意を表します。

証拠標本

スズダケ：長野市松代町尼厳山．Oct. 20. 2020. K.MIKI. NAC197761；長野市中条小手屋虫倉山．Oct. 20. 2020. K.MIKI. NAC197765；長野市七二会陣馬平山地蔵峠．Oct. 21. 2020. K.MIKI. NAC197768；長野市戸隠霧見岳．Oct. 21. 2021. K.MIKI. NAC197771.

シオバラザサ：長野市篠ノ井山布施．Oct. 20. 2020. K.MIKI. NAC197762.

タンゴシノ：長野市中条境ノ沢．Oct. 20. 2020. K.MIKI. NAC197763.

オオバザサ：長野市中条境ノ沢．Oct. 20. 2020. K.MIKI. NAC197764；長野市七二会陣馬平山地蔵峠．Oct. 21. 2021. K.MIKI. NAC197770.

クマイザサ：長野市中条小手屋虫倉山．Oct. 20. 2020. K.MIKI. NAC197766；長野市戸隠竜虎トン



図 2. ハコネナンブスズ (地蔵峠)



図 3. スズダケ (霧見岳)



図 4. アズマネザサとアズマザサ属の種との混生



図 5. オオバザサ (チマキザサ節) と
タンゴシノ (アズマザサ属) の混生

ネル . Oct. 21. 2021. K.MIKI. NAC197772.

アズマネザサ：長野市篠ノ井岡田 . Oct. 21. 2020.
K.MIKI. NAC197767.

ハコネナンプスズ：長野市七二会陣馬平山地蔵峠 .
Oct. 21. 2020. K.MIKI. NAC197769.

引用文献

小林幹夫（2017）日本のタケ亜科植物．北隆館．東

京．

宮脇昭編（1979）長野県の現存植生．長野県．長野．
中村千賀（2014）長野市内で確認された希少植物
と植物相の地域特性．長野市立博物館紀要 15:
86-93.

清水建美監修（1997）長野県植物誌．信濃毎日新聞
社．長野．

鈴木貞雄（1997）日本タケ科植物図鑑．聚海書林．
千葉．